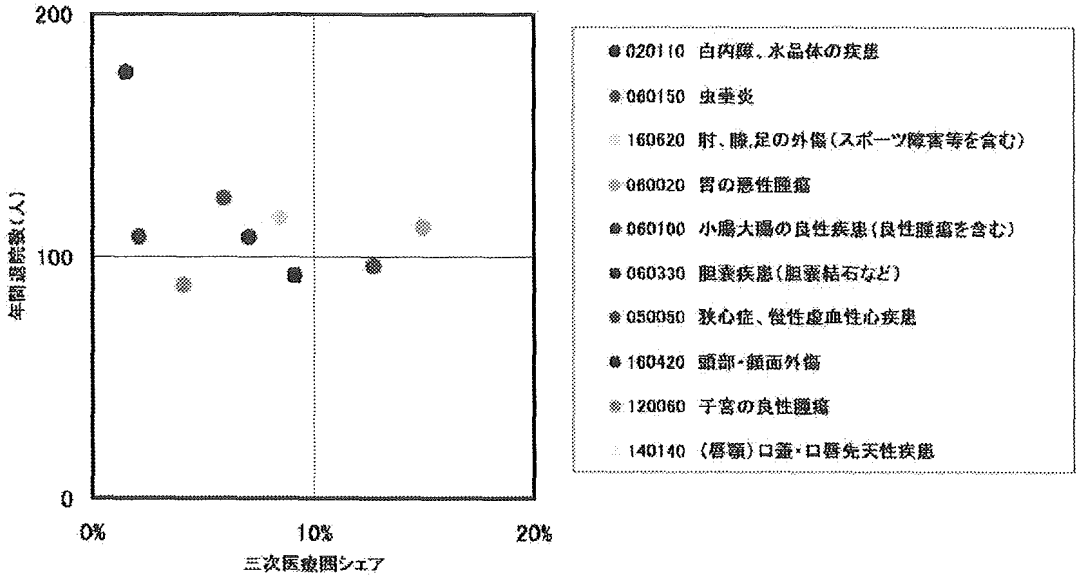
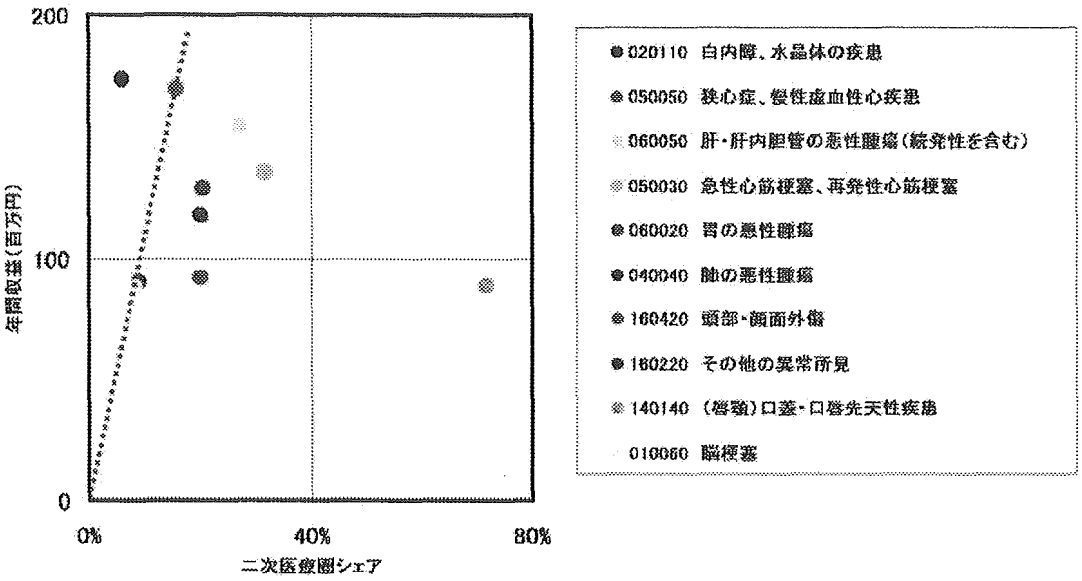
分析１－３　DPC別短期手術入院都道府県内シェア分析



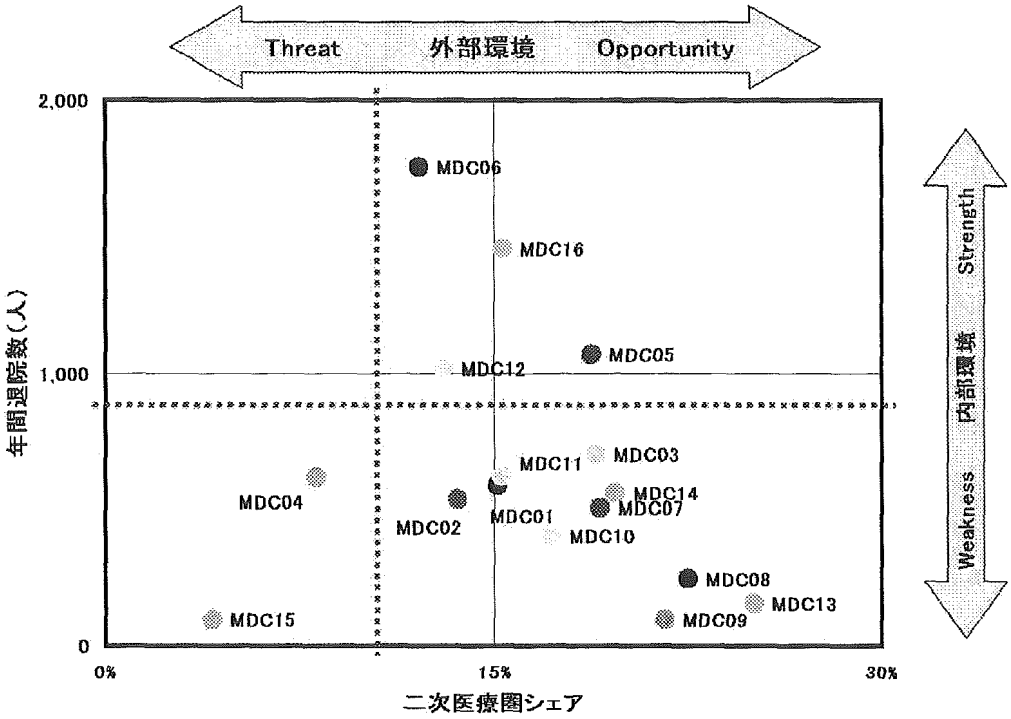
- 都道府県内でのシェアを見ると、DPC060020 胃癌と DPC050050 狭心症が 10%を越えて都道府県内でも重要な位置を占めている。特に、DPC050050 狭心症については、二次医療圏内シェアと比較して三次医療圏内のシェアが相対的に大きくなっていることは、この大学病院の循環器系手術の医療圏が特に広がっていることを示している。

分析２　DPC 別短期入院二次医療圏内シェアー収益分析



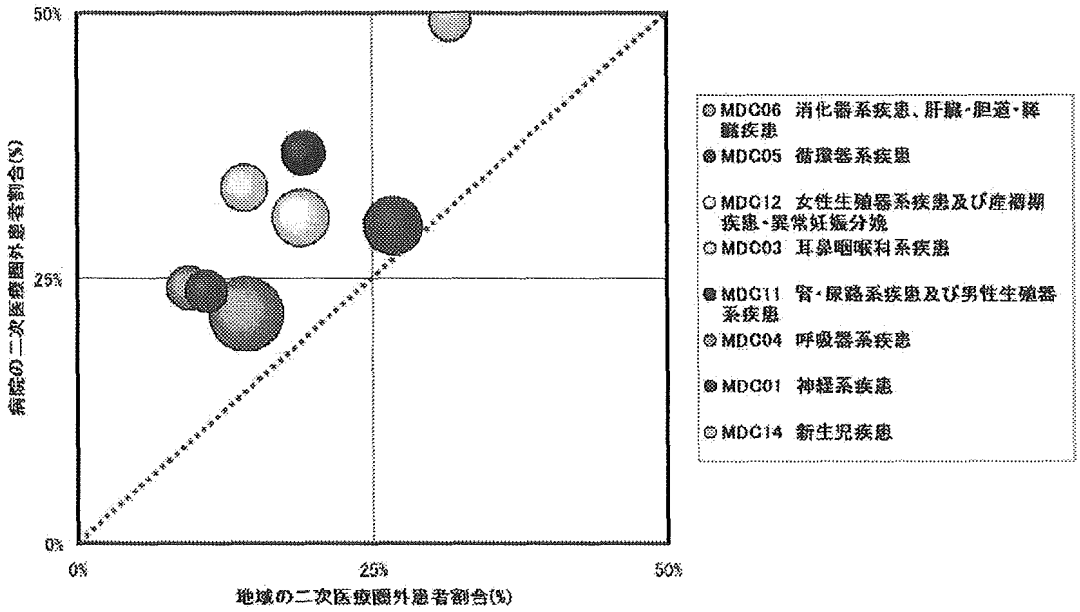
- 収益面から見ると、循環器系、各種悪性腫瘍等の疾患が、在院日数が長く、診療報酬額も高いことから、上位に上がってきている。この大学病院ではこれらの専門的な診療が医業収益の重要な部分を占めていることがわかる。
- 二次医療圏シェアを含めて分析すると、専門性が高く医業収益の大きな部分を占めるDPC050050 狭心症の二次医療圏内シェアが低いことがわかる。図中に破線で示すような二次医療圏シェアと疾患別年間医業収入の関係のシミュレーションから、この分野の診療に力を入れ、地域シェアを伸ばすことができれば、医業収益の増加に大きく貢献することが期待される。

分析３－１　短期入院 SWOT 分析



- この大学病院の診療科別に見ると、MDC05 循環器系、MDC06 消化器系、MDC12 産婦人科系、MDC16 その他外傷系の患者数が多く、地域シェアも大きいことから、これらの分野において積極的攻勢に出てより診療の充実を図っていくことが経営戦略的に重要であるといえる。
- 一方、MDC01 脳神経系、MDC02 眼科系、MDC03 耳鼻科系、MDC07 整形外科系、MDC08 皮膚科系、MDC09 乳腺外科系、MDC10 内分泌系、MDC11 腎・泌尿器科系、MDC13 血液系、MDC14 小児科系などでは、患者数はそれほど多くないものの地域におけるシェアは比較的大きく、地域医療の重要な部分を担っている。従って、これらの分野については、いわゆる「段階的施策」として、診療内容を徐々に充実させていく対策が必要となる。
- 最後に、MDC04 呼吸器系、MDC15 新生児等の診療科は、マーケティングの観点からは患者数が少なく二次医療圏内シェアも低いことから厳しい状況にあるといえる。二次医療圏内に有力な専門医療機関が存在するのであろう。対策としては、「専守防衛」を基本方針として医療連携を重視し、場合によっては、「撤退」も考慮する必要があろう。

分析４－１　短期入院圏外患者分析

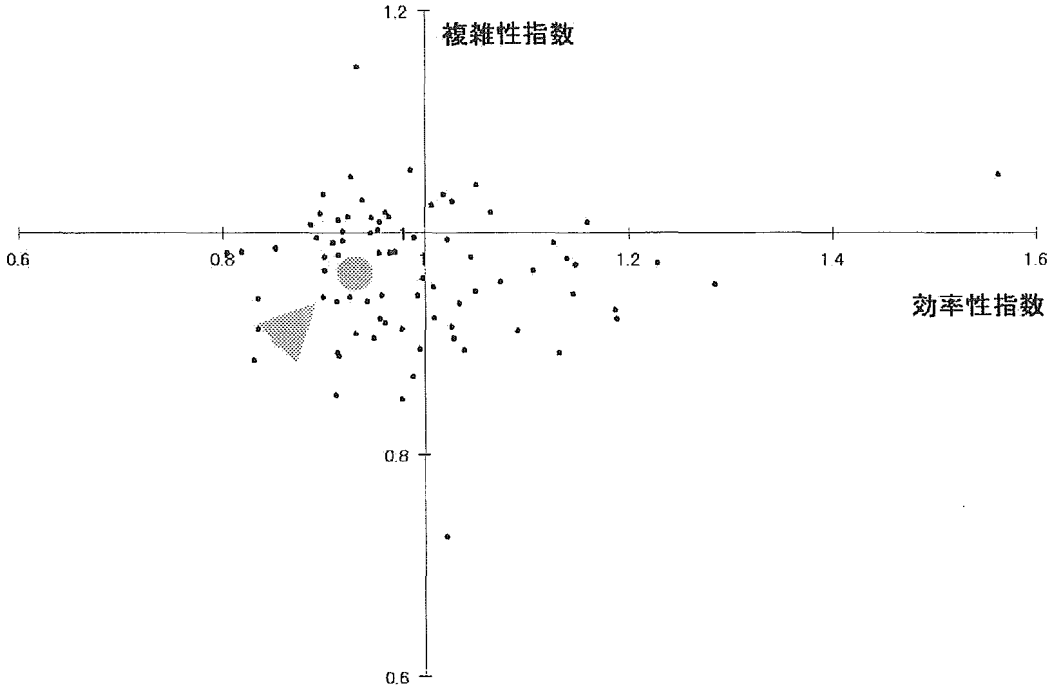


- この医療機関の所属する二次医療圏では、ほぼ 10%から 30%の患者が二次医療圏外から入院していて、MDC14 新生児疾患、MDC05 循環器系疾患では 25%を越える患者が二次医療圏外からの入院であることがわかる。

- 一方、この大学病院の二次医療圏外患者の割合は、この二次医療圏の中の他の医療機関よりも高いため、すべての診療科のバブルが図中の破線より上方に位置している。すなわち、この大学病院の診療圏は同じ二次医療圏内の他の多くの医療機関よりも大きくなっていて、より遠くからの患者が入院していることがわかる。

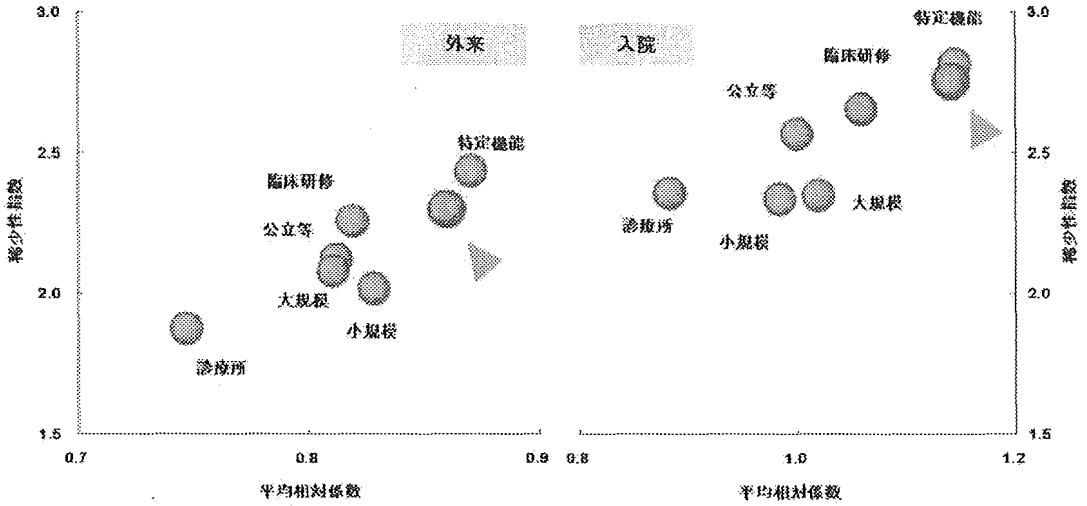
- 診療科単位で見ると、MDC14 新生児疾患では、二次医療圏外からの患者の割合が 50%前後と大きく、広い地域からの入院患者を受け入れていることがわかる。その他、腎泌尿器系、耳鼻科系、産婦人科系、循環器系は 30%前後の患者が二次医療圏外であり比較的医療圏が広いと言える。MDC04 呼吸器系は SWOT 分析が示すように二次医療圏内では弱いようであるが、それを二次医療圏外からの遠方からの患者でカバーしている面があるようである。

分析５　効率性・複雑性分析



- この医療機関のケースミックスの複雑性指数は、全特定機能病院の平均を 1 としたときに、約 0.96 であり、特定機能病院の平均より 4%ほど複雑性の低い症例が入院していることがわかる。
- 一方、ケースミックスを補正したときの在院日数の効率性を示す効率性指数は、全特定機能病院の平均を 1 としたとき、0.93 であり、特定機能病院の平均に比較して 7%ほど効率の劣る医療を提供していると言える。効率性の改善を検討する余地があるといえるだろう。

分析６　稀少性・相対係数分析



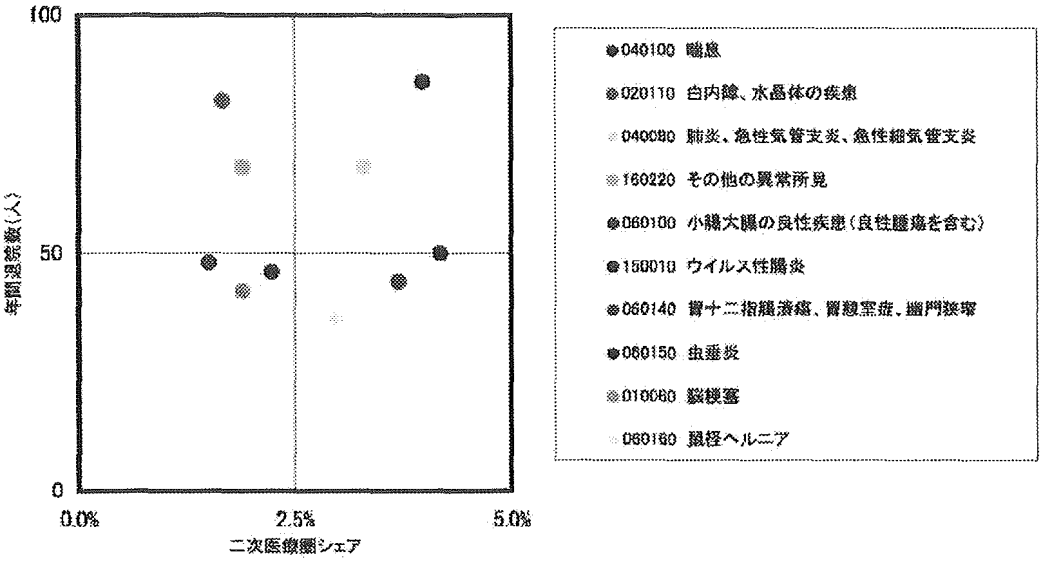
- この医療機関の外来患者の平均相対係数は 0.86、稀少性指数は 2.30 となっている。前者はほぼ特定機能病院の外来の平均と近く、後者は臨床研修病院の外来の平均と近い。この医療機関の外来患者の平均像は、重症度としてはほぼ特定機能病院の平均像に近いが、多様性の観点では、特定機能病院の平均よりやや低く、ほぼ臨床研修病院並みであるということになる。
- 一方、入院患者をみると、平均相対係数は 1.14、稀少性指数は 2.75 となっていて、両者とも特定機能病院の平均値とほぼ同様である。この医療機関の入院患者の重症度と多様性はほぼ特定機能病院の平均値と同等であるといえる。

分析レポート例3

大都市の
中規模急性期病院

人口 100 万人超の大都市にある一般病床数 400 床程度の地域密着型の急性期中規模病院を想定した分析

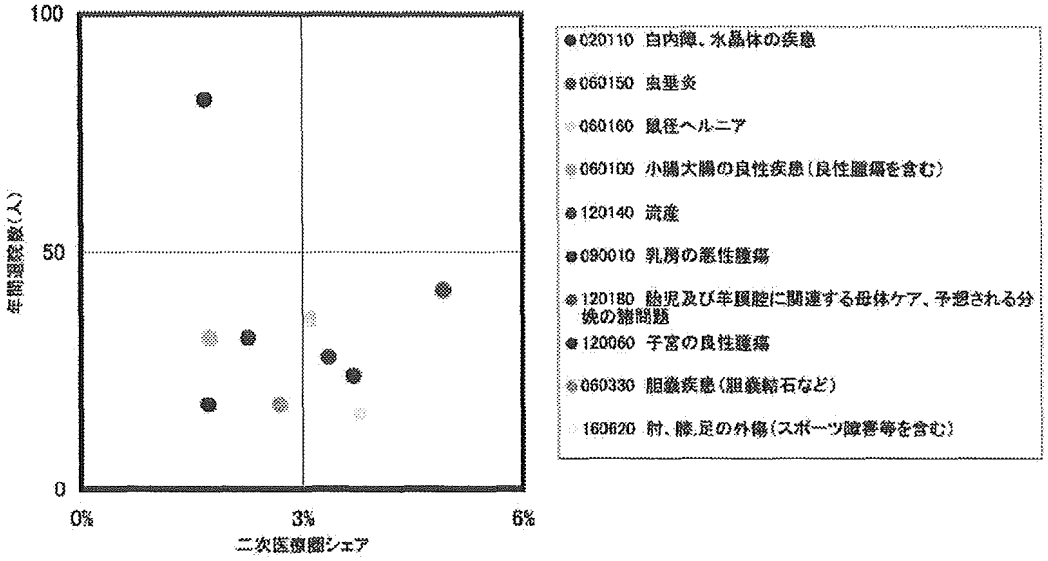
分析１－１　DPC 別短期入院二次医療圏シェア分析



- この病院の短期入院患者のトップ 10 は、喘息、白内障、肺炎、腸炎、消化性潰瘍、虫垂炎、脳梗塞等多彩であるが、いわゆるコモンディジーズが大部分を占めいている。これは、この病院が専門性のあまり高くない一般的な入院医療を幅広く提供していることを示している。

- マーケットシェアは大都市の二次医療圏であることを差し引いてもあまり大きい方ではなく、地域に類似した医療機関が複数あることが予想される。

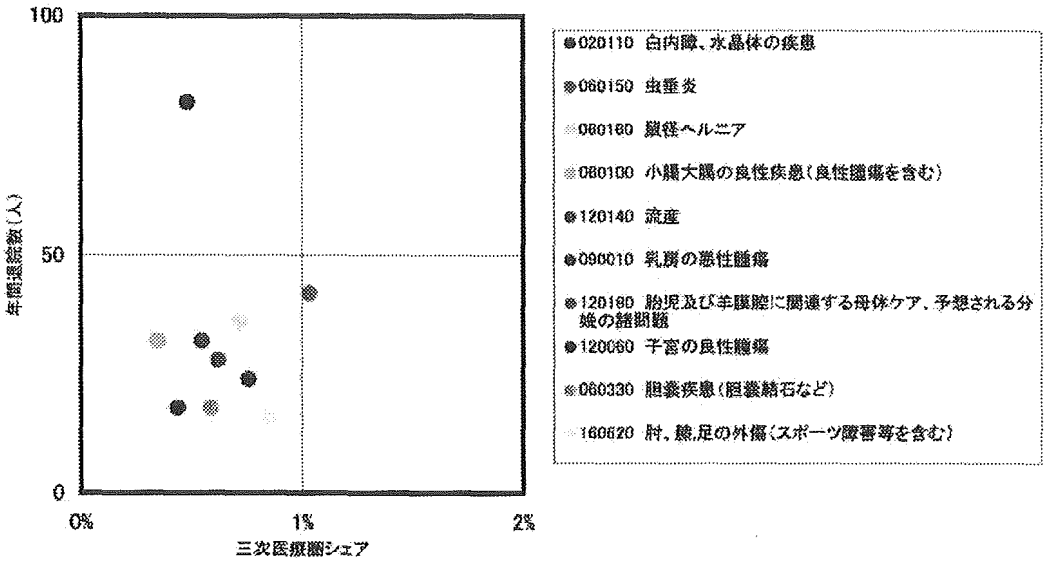
分析１－２　DPC別短期手術入院二次医療圏内シェア分析



- 手術入院患者の状況も同様である。専門性があまり高くない手術疾患が多く、地域シェアも虫垂炎の5%前後が最大で他は2-3%とあまり大きくない。

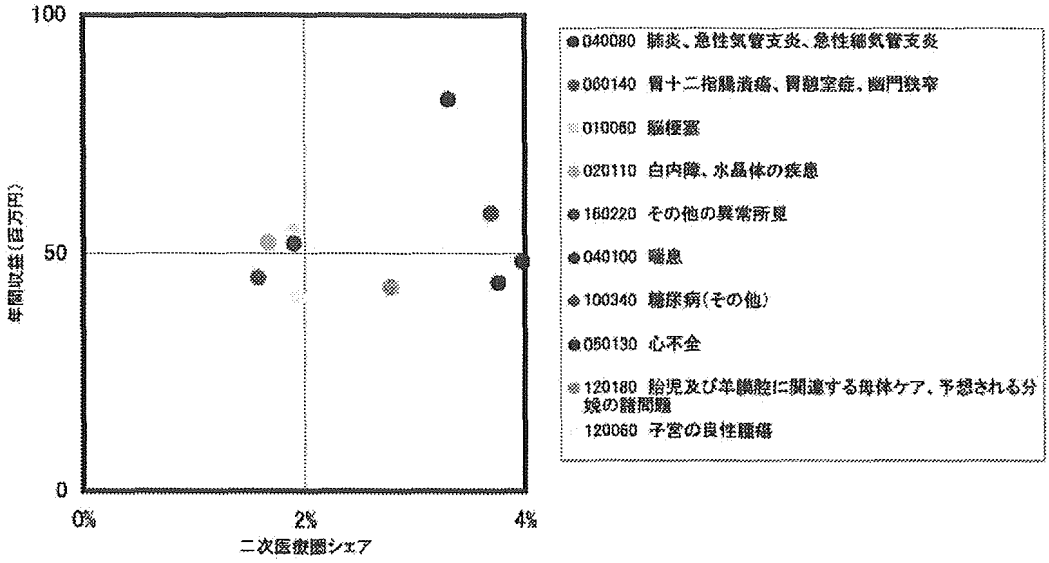
- 手術の視点からもあまり特徴のない一般的な病院と捉えていいようである。

分析１－３　DPC別短期手術入院都道府県内シェア分析



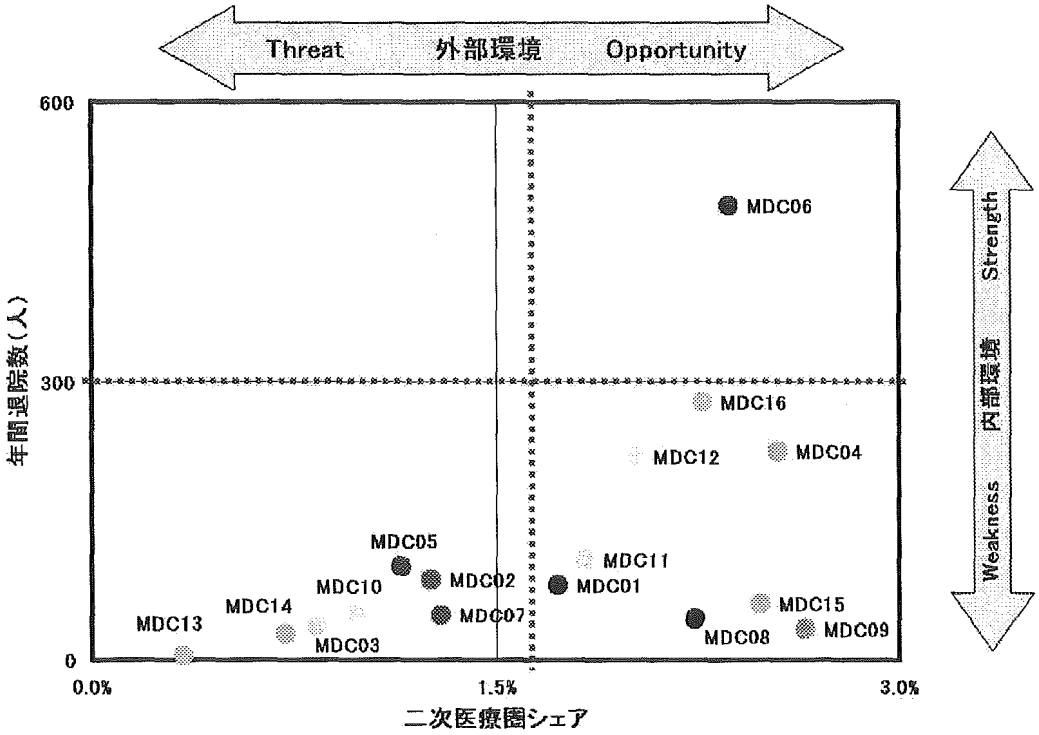
- 三次医療圏シェアはほぼ1%以下である。大都市圏においては、よほど大きな病院以外は三次医療圏シェアの分析はあまり意味がないであろう。

分析２　DPC 別短期入院二次医療圏内シェアー収益分析



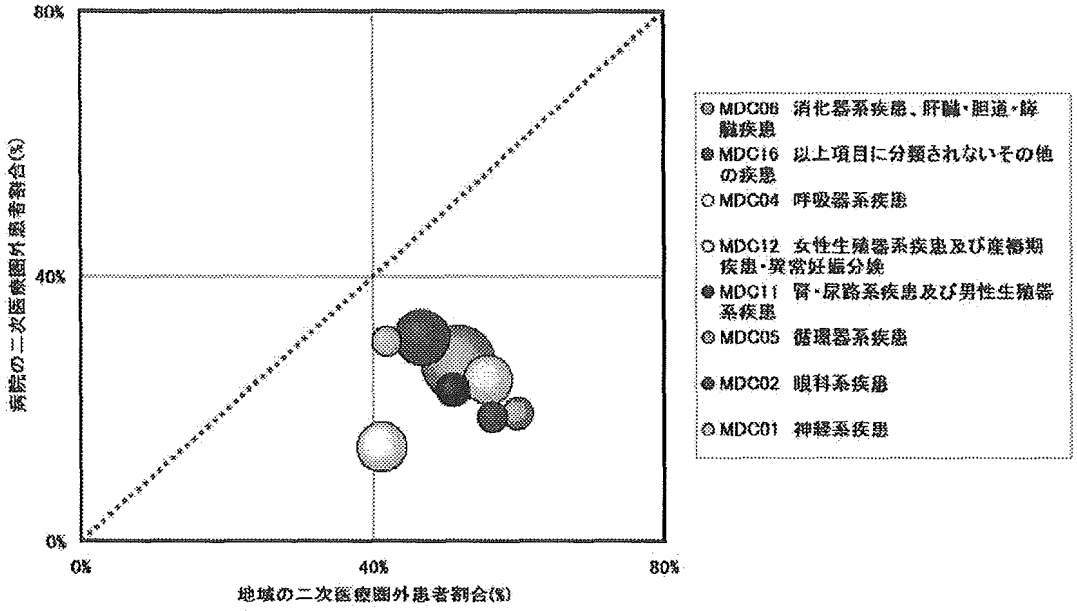
- この結果からは、シェアの増大によって収益増加に大きな貢献が期待される疾患を示すことは難しいが、強いて上げれば、肺炎、白内障、脳梗塞等のシェアを伸ばす努力の効果が期待できるであろう。

分析３－１　短期入院 SWOT 分析



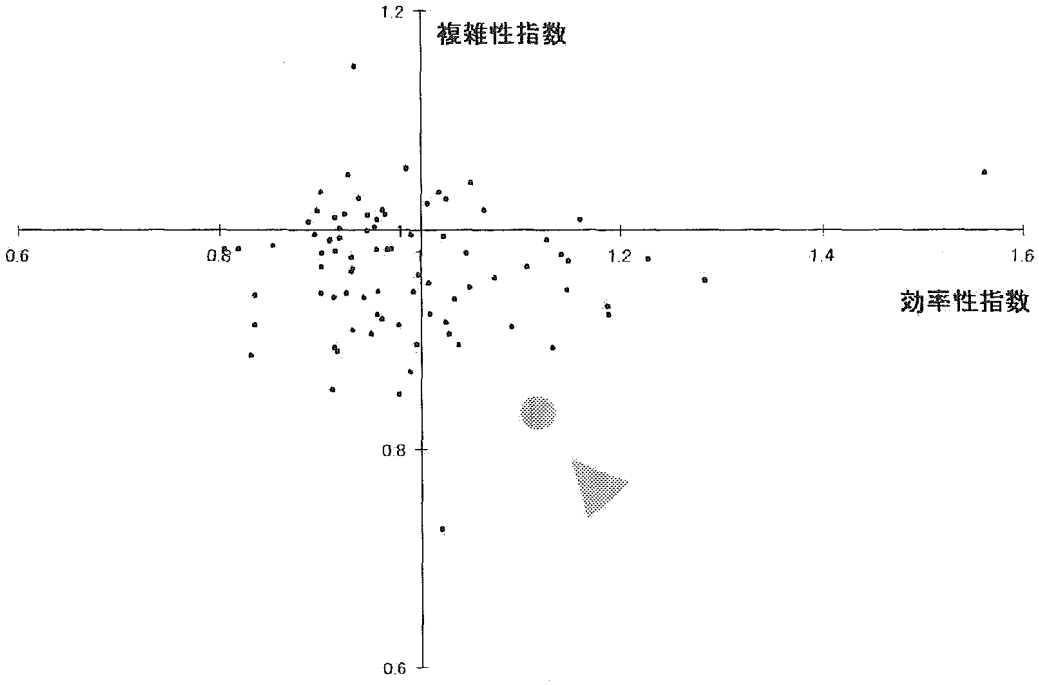
- この医療機関の診療科別 SWOT 分析を行うと、MDC06 消化器系診療科の患者数が多く、かつ地域シェアも比較的大きいことから、消化器系分野においては積極的攻勢に出てより診療の充実を図っていくことが経営戦略的に重要であるといえよう。
- 一方、MDC01 脳神経系、MDC04 呼吸器系、MDC08 皮膚科系、MDC09 乳腺外科系、MDC11 腎・泌尿器科系、MDC12 産婦人科系、MDC15 新生児等、MDC16 その他外傷等などでは、患者数はあまり多くないものの地域におけるシェアは比較的大きく、地域医療の重要な部分を担っている可能性が高い。従って、これらの分野については、「段階的施策」として、診療内容を徐々に充実させていく対策が必要となる。
- これに対して、その他の診療科は厳しい状況にあり、、「専守防衛」を基本方針とし、場合によっては、「撤退」も考慮する必要があろう。

分析４－１　短期入院圏外患者分析



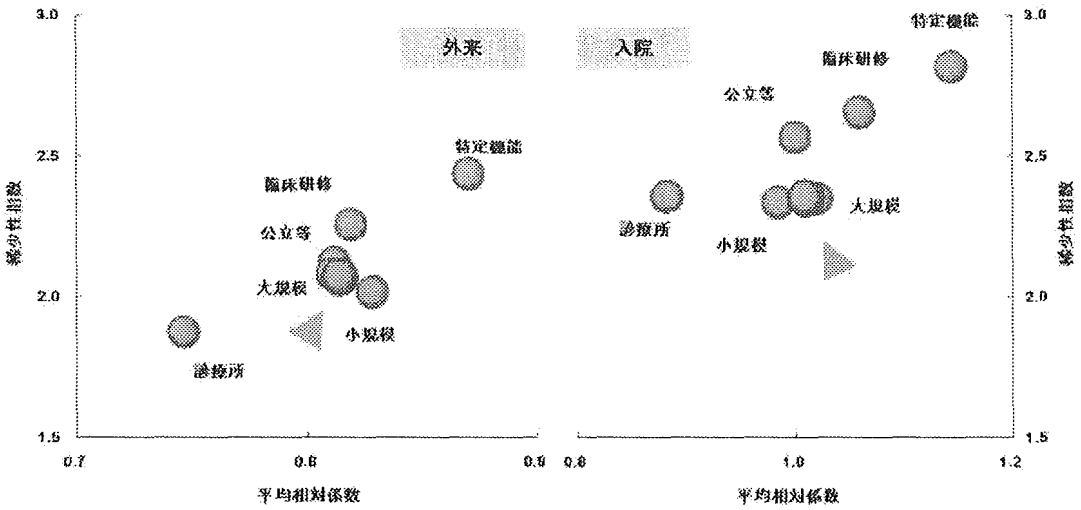
- この医療機関の属する二次医療圏は、二次医療圏外から入院してくる急性期患者が非常に多いことが特徴で、多くの診療科で二次医療圏外から入院してくる患者の割合が40%を越えている。都会型診療圏と考えられ、発達した交通機関を利用して比較的遠方からの受療が多いようである。
- ところが、この医療機関の二次医療圏外患者の割合はほぼ 30%以下であり、地域の標準的な傾向と比較して非常に小さくなっている。そのために、すべてのバブルが図中の破線より大きく下方に位置している。地域密着型の医療機関の特徴であるといえよう。
- 診療科単位では特に呼吸器系の患者の二次医療圏外患者の割合が低いことが特徴である。喘息患者の入院が多かった分析と合わせて考えると、地域呼吸器系疾患診療のプライマリケアに相当する部分を多く担当していると考えられる。
- この医療機関の医療圏の狭小さは将来ビジョンの設定に大きく影響するであろう。地域密着型のプライマリケア重視医療機関となるか、診療圏の拡大を図ってやや高度な急性期医療を担うことを目指すかの選択が必要となる時期がいずれ近いうちにくるのではないだろうか。

分析５　効率性・複雑性分析



- この医療機関のケースミックスの複雑性指数は、全特定機能病院の平均を 1 としたときに約 0.82 であり、特定機能病院の平均より 18%ほど複雑性の低い症例が入院していることがわかる。特定機能病院の平均よりはかなり重症度の低い入院患者が多いと捉えられる。
- 一方、ケースミックスを補正したときの在院日数の短さを示す効率性指数は、全特定機能病院の平均を 1 としたとき、1.10 であり、特定機能病院の平均に比較して 10%ほど効率の良い医療を提供していると言える。

分析６　稀少性・相対係数分析



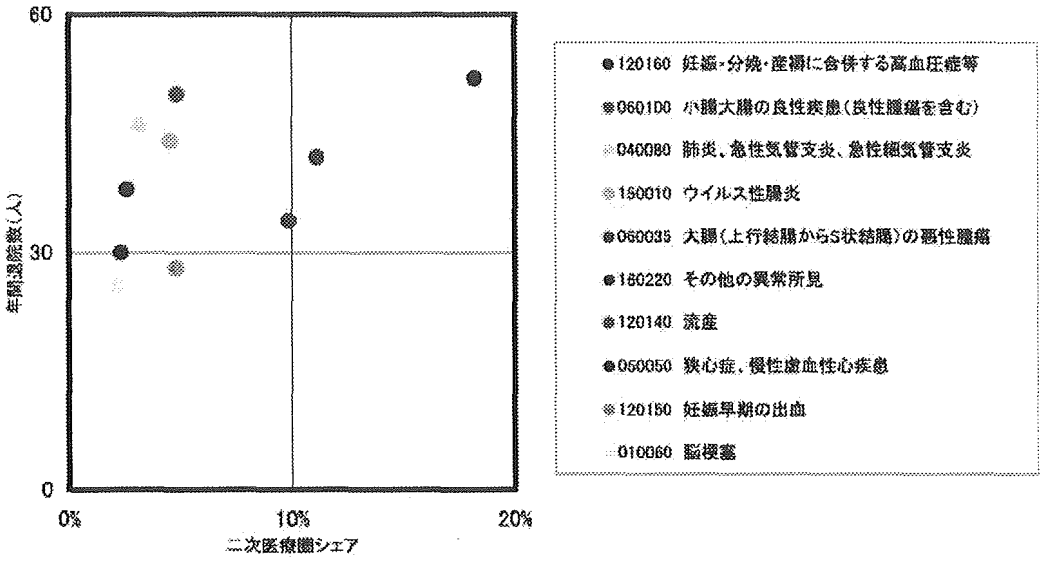
- この医療機関の外来患者の平均相対係数は 0.81、稀少性指数は 2.07 となっている。これらの値はほぼ民間大病院の外来の平均と近い。この医療機関の外来患者の平均像は、民間大病院とほぼ同等の重症度と多様性があるといえる。
- 一方、入院患者をみると、平均相対係数は 1.13、稀少性指数は 2.55 となっていて、相対係数、稀少性指数とも民間大病院の平均と同等である。この医療機関の入院患者の重症度と多様性は、民間大病院とほぼ同等であるといえる。

分析レポート例4

地方都市の
中規模急性期病院

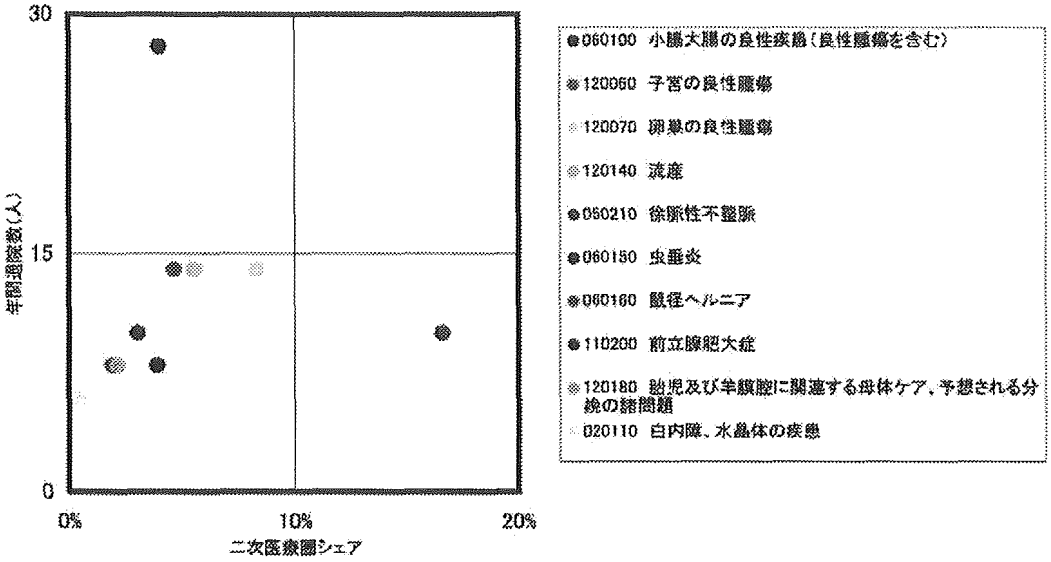
人口 20-30 万人程度の地方都市にある一般病床数 200 床程度の中小急性期病院を想定した分析

分析１－１　DPC 別短期入院二次医療圏シェア分析



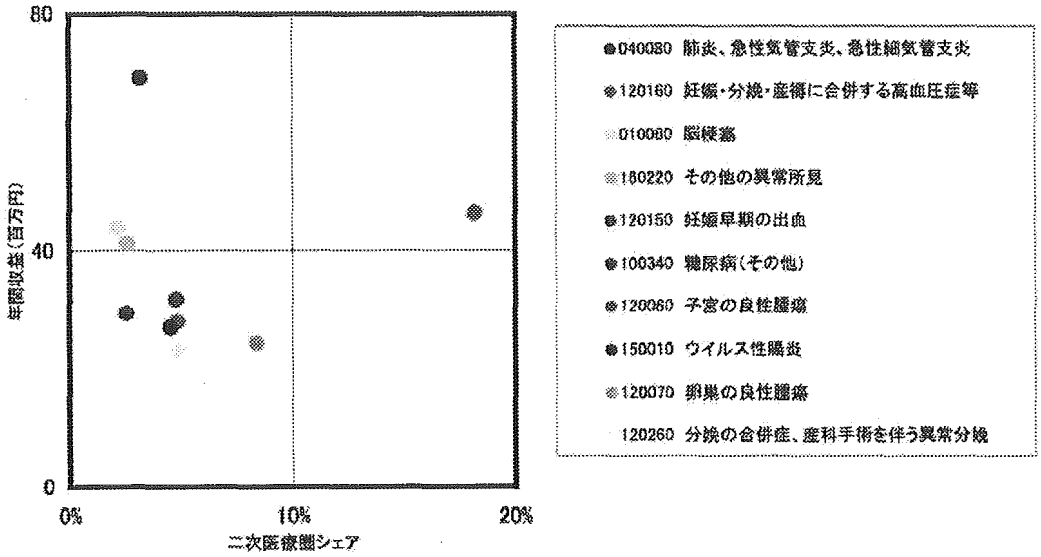
- この医療機関の短期入院患者のトップ 10 は、産婦人科系、消化器系が多く、これらの分野を中心とした医療を提供している地方都市の中規模医療機関の典型的な例と言える。
- マーケットシェアからは、DPC120160 妊娠等の合併症、DPC12014100 流産が 10%-20%前後で、中規模の医療機関としてはかなり高く、この地域での産婦人科系診療で重要な役割を果たしていることが読み取れる。また、DPC060035 大腸癌は 10%前後と他の消化器系疾患よりは大きく、消化管の悪性疾患の治療に於いても一定の役割を果たしていると言える。
- 一方、その他の疾患については、二次医療圏シェアは 5%以下であり、同じ二次医療圏内の他の医療機関と競合関係に有ることが予想されるが、逆に言えば、二次医療圏シェアの拡大による患者数の増加も期待出来ることが示されている。

分析１－２　DPC別短期手術入院二次医療圏内シェア分析



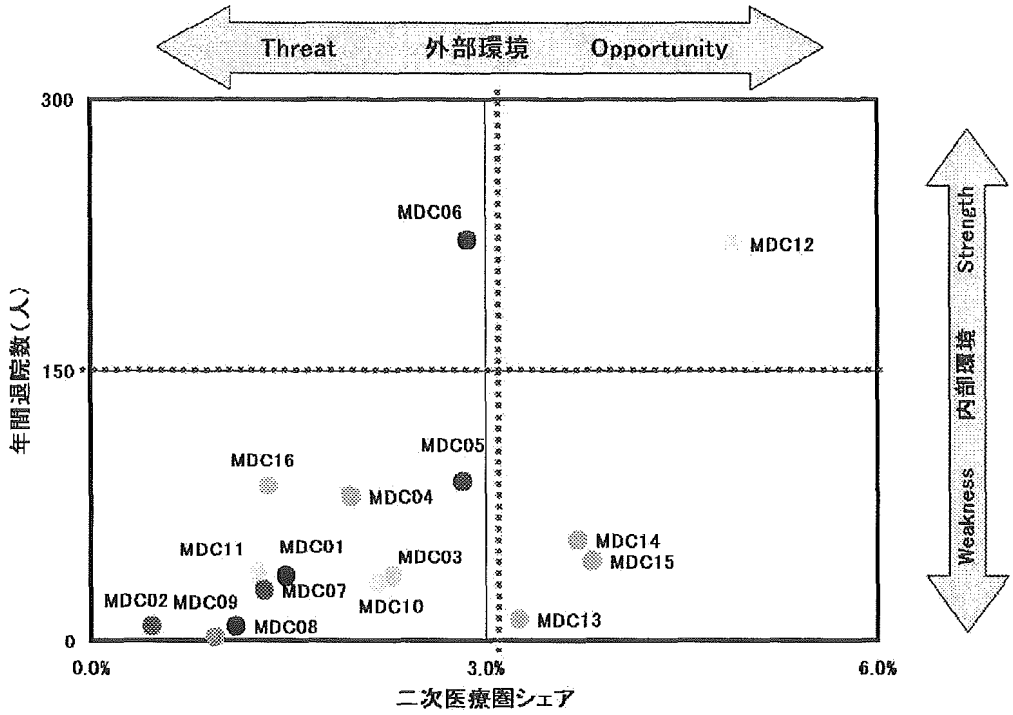
- 手術入院患者の状況を見ると、この医療機関の急性期医療の別の側面が明らかとなる。手術入院患者のトップ10では、やはり消化器系、産婦人科系が多いが、不整脈、前立腺肥大症、白内障等広汎な分野での手術治療も行っていることがわかる。それほど手術数は多くはないが広い分野の手術を実施しているようである。
- マーケットシェアの視点から見ると、DPC050210徐脈性不整脈の二次医療圏シェアが15%以上と飛び抜けて大きい。症例数は多くはないが、地域における不整脈治療の重要な役割を果たしていることが推察される。
- 一方、この医療機関の中心である産婦人科系、消化器系疾患では、いずれの疾患も二次医療圏シェアは5%前後と低く、外科的治療におけるこの医療機関の地域における重要性はあまり高くないようである。難度の高い手術が必要な症例などは、他の医療機関に転院しているのであろう。
- 不整脈などのごく一部を除いては、重症度のあまり高くない診療からプライマリケアに近い部分の診療をおもに担当している医療機関であることが推察される。

分析２　DPC 別短期入院二次医療圏内シェアー収益分析



- 退院患者数では消化器系の疾患が多かったが、収益面から見ると、在院日数の長い肺炎、脳梗塞、糖尿病等が年間収益に貢献している疾患としてあがってきている。消化器系では、短期入院患者を早く回転させている一方、比較的在院日数の長い肺炎、脳梗塞、糖尿病等の患者が病棟を占有しているようである。
- 二次医療圏シェアを含めて分析すると、収益の大きい肺炎、脳梗塞、糖尿病等は二次医療圏シェアが低いので、これらの部分のシェアの拡大による収益増大が期待されるが、これらの疾患の急性期医療の需要は限定的であるので、急性期医療から亜急性期医療へ重点をシフトする必要があろう。
- 一方、手術を中心とした急性期医療を延ばしたいのであれば、産婦人科系の専門性を高めることも一つの選択枝となるようである。二次医療圏シェアはまだ 10%前後と低いので今後拡大していく余地は有ろう。

分析３－１　短期入院 SWOT 分析



- この医療機関の診療科別に見ると、MDC12 産婦人科系の患者数が多く、地域シェアも有る程度確保している。したがって、この分野においては積極的攻勢に出てより診療の充実を図っていくことが経営戦略的に重要であるといえる。
- 一方、MDC06 消化器系は、患者数は多いものの二次医療圏シェアは 3%前後と低く、競合する医療機関が多いことが予想される。いわゆる「差別化戦略」として新規技術の導入、新規機器の購入等を図ることがシェアの維持と拡大に重要となる。
- さらに、MDC13 造血器系、MDC14 小児科系、MDC15 新生児系では、患者数はあまり多くないものの地域におけるシェアは比較的大きく、地域医療の重要な部分を担っている可能性が高い。従って、これらの分野については、「段階的施策」として、診療内容を徐々に充実させていく対策が必要となる。
- 最後に、その他の診療科は厳しい状況にあり、特に、脳神経系、眼科系、皮膚科系、整形外科系等は、「専守防衛」を基本方針とし、場合によっては、「撤退」も考慮する必要があろう。